

【別紙】平成31年度 学校自己評価重点目標シート (川口市立高等学校 全日制)

(A4判横)

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 未来を創る しなやかでたくましい人材の育成 |
| 目指す学校像 | 新しい時代の教育を創造し、しなやかでたくましい人材を育てる川口市のリーディング校 |

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

| | |
|----------------|----|
| 出席者 | |
| 学校関係者 (教職員を除く) | 5名 |
| 事務局 (教職員) | 5名 |

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | | |
|-------------|---|---|--|---|-----------------|---|
| 領 域 | 年 度 目 標 | | | 年 度 評 価 (令 和 2 年 1 月 3 1 日 現 在) | | |
| | 現状と課題 | 重点目標 | 具体的方策 | 重点目標の達成状況 | 達成度 次年度への課題と改善策 | |
| 組織運営 | <ul style="list-style-type: none"> ・H31年度に策定した川口市立高等学校将来構想の具現化に向けた具体的な取り組みを始める必要がある | 「将来構想の具現化」 ①新たなタイプの進学校 ②文武両道を具現化する学校 ③理数科教育を牽引する拠点校 ④附属中学校を併設する中高一貫教育校 | ①週時程と土曜講習の実施について検討から準備段階へ移行 (7月まで) ②文理スポーツコースの在り方プロジェクト会議を編成し検討を開始 (10月まで) ③SSH指定の申請 ④開設準備室との連携 | 将来構想の具現化に向けて、プロジェクトチームを編成して推進することができた ①45分授業と土曜講習の実施を決定し、準備を進めている ②スポーツに重点を置くコースとする方針を決定した ③SSH指定の申請書を提出した | A | ①45分授業と土曜講習の確実な実施により進学校としての学力向上に成果を上げる ②令和3年度に向けて文理スポーツコースの改編を進める ③文科省がSSH指定の審査中 ④附属中学校開校に向けて6年間の一貫教育の研究を進める |
| 教育課程 | <ul style="list-style-type: none"> ・次期学習指導要領に基づき教育課程案を市教委・県教委と連携して今年度中に作成する必要がある ・国公立進学を目指す生徒の量的な確保と進路指導体制の構築が求められている | 「新たなタイプの進学校」 ⑤次期学習指導要領に対応した進学校型の教育課程を編成する ⑥国公立進学を目指す進学指導を推進する | ⑤教育課程委員会を中心に全校で新しい教育課程編成に取り組む ⑥国公立進学の教育課程編成による計画的な進路指導を推進 (国公立を目標とする生徒150名以上) | 幅広い学力と教養を身につける教育課程を実施している ⑤令和4年度からの次期教育課程の編成が計画通り進んでいる ⑥受験に多くの教科・科目を必要とする国公立大学への進学に重点を置き指導している | B | ⑤新たなタイプの進学校づくりの方針を、令和4年度からの教育課程編成に反映させる ⑥本校教育課程の編成と進路指導の方針について生徒及び保護者に丁寧な説明を行い意識の啓発につなげる |
| 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・新しい学校への関心と期待の高さに応えるため、丁寧な情報発信が必要である ・唯一の市立高校として、地域の教育資源活用や諸機関からの支援を受けやすい環境にある | 「学校を核とした地域づくり」 ⑦市民に的確な情報発信をする ⑧リーディング校として市教委事業等に協力するとともに、地域貢献する教育を推進する | ⑦ホームページやメール配信を活用した戦略的な情報発信 (アクセス数30万以上) ⑧市教委事業に対する会場提供・協力 (5事業以上) ・小中学校との連携・協力 ・社会や地域実践に学ぶ教育活動 (総合的な学習) | ⑦ホームページで丁寧な情報発信を心がけ30万アクセスを達成できた ⑧市教委の事業にも積極的に協力しリーディング校としての役割を果たすことができた | A | ⑦「生徒の顔が見える情報発信」ができるよう、アップする内容や方法を工夫する。 ⑧独自の小中学生対象事業や川口市を題材にした学習などにより「地域に貢献する意思と行動力をもつ生徒」を育成する |
| 教職員の資質向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・新たなタイプの進学校づくりに向けた教職員の研修システム構築が遅れている ・最新鋭の施設・設備や立地条件などから大学や研究機関から協力が受けやすい | 「新しい教育への対応」 ⑨新たな研修システムを構築する ⑩アクティブラーニングやICTの効果的な活用を研修テーマとし、計画的な教職員研修を行う | ⑨教職員グループ研修の新設 (4グループ程度) ・校外研修、先進校視察 (延べ20名以上) ⑩未来を拓く学びプロジェクトに全教科が参加 ・AL、ICTを活用した授業展開の研究 | ⑨グループ研修については準備が間に合わず開始することができなかった ⑩「未来を拓く学びプロジェクト」に、全教科22名の教職員を研究員として派遣することができた | B | ⑨グループによる研修を実施することで、教職員間で学び合い高め合う風土を更に醸成する ⑩県教委主催の研修会をはじめ学校外の機関が行う研修にも積極的に教職員を派遣するし研修の機会を確保する |
| 施設・設備等の管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・自転車事故、不審者・防犯対策、アリーナ棟建設工事等、本校独自の安全面への配慮が必要となる ・ICTをはじめとする最新鋭の施設を教育活動に効果的に活用する必要がある | 「最新鋭の設備の効果的活用と安全への配慮」 ⑪自転車通学をはじめ本校特有の課題に対して安心・安全の確保に努める ⑫最新鋭の施設・設備を生かした教育活動を展開する | ⑪自転車事故防止の指導不審者・防犯対策、アリーナ棟工事中の安全確保、旧県陽、川口高校の施設の安全点検 ⑫ICTの有効活用による授業の充実とペーパーレス化 | ⑪施設の工事について大きな課題は生じていないが、軽微なものも含め登下校中の自転車事故が多発しており対策に苦慮している ⑫ICTを授業で活用することを研修課題として全教職員が取り組んだ | C | ⑪アリーナ棟の工事に加え、第2校地の工事が始まり、新たな安全対策が必要となっているため、新たな組織を構築して対応する ⑫ICT機器を効果的に活用するために教職員に対する物的・人的支援を充実させる |

| 学 校 関 係 者 評 価 | |
|--|-----------|
| ※実施日 | 令和2年2月10日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・45分7時間授業を実施することで授業数が確保できるとともに単位数が増え、学力向上に資する取組である。 ・国公立大学進学を目指す進学指導について、生徒及び保護者に対して継続的な啓発が必要である。 ・学校評価のホームページに係る質問の結果を見ると、生徒と保護者にギャップがある。情報発信の内容や方法を工夫する必要がある。 ・本市に優秀な人材を確保したい。そのために、市内の企業を知る教育も推進してほしい。 ・学校教育目標「しなやかでたくましい人材」を育成するために、目的意識を持って生きていけるよう教職員が生徒と向き合い指導してほしい。 ・自転車事故の防止に向けて、継続した安全指導が必要である。 | |